

公益財団法人 日本テニス協会のテニス普及事業

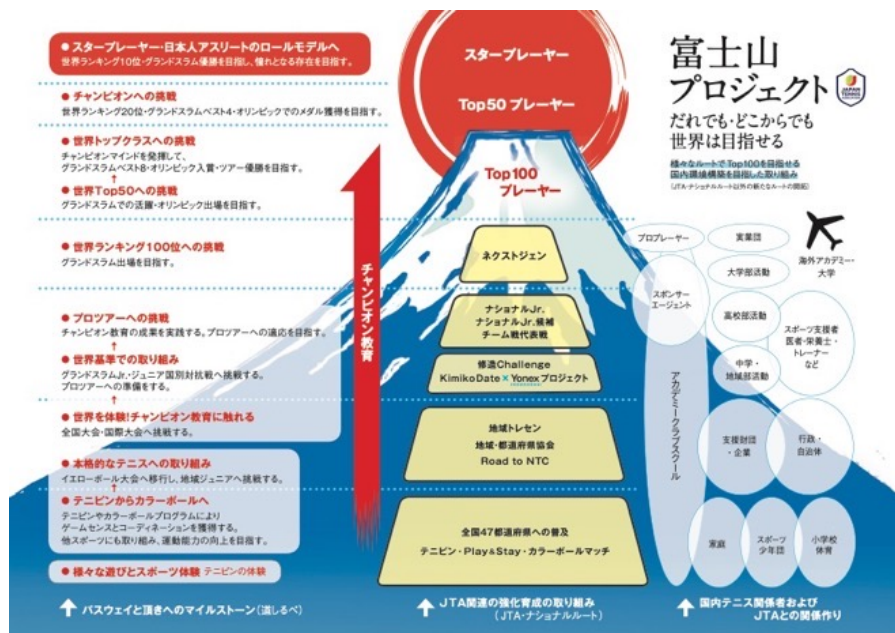
2023年度 活動報告書

2024年9月

公益財団法人日本テニス協会
普及推進本部

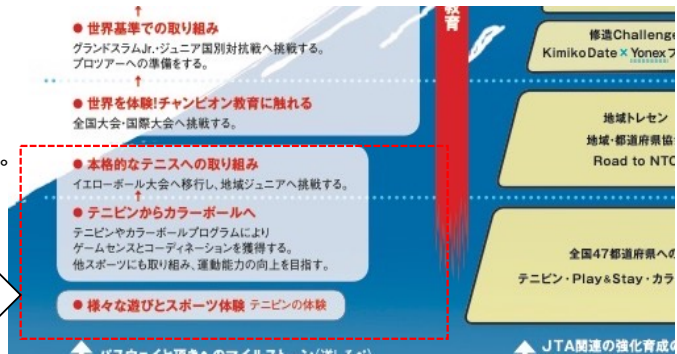
普及育成強化の流れ（日本テニス協会 富士山プロジェクト）

世界ランキングトップ10に入るようなテニスのスター選手は偶然に生まれるものではありません。ジュニアへの普及活動から育成、タレントの発掘、強化に至る流れが整備されていなければ、スター選手を産むことは不可能です。当協会ではそのような「普及」→「発掘・選抜」→「育成」→「強化」に至る流れを、富士山にたとえモデル化しています。当協会の普及育成強化事業は全てこのモデルの中に位置付けられています。



- 日本テニス協会では普及事業のうち、富士山プロジェクト図の左下、テニス未体験のジュニアへのテニス体験とゲームの面白さの発見による習慣化を中心に事業を行っています。

普及事業の位置付け



- テニスというスポーツは小さな子供にとって簡単なスポーツではありません。いきなり普通のラケットやボールを用いても上手いかず長続きしません。当協会では、下記の「テニピン」「カラーボール」により、そのハードルを下げて本格的なテニスの普及につなげていきます。

テニピン バトミントンコート程度の大きさで、手に直接はめるハンドラケットを使いスポンジボールを用いるボールゲームの体験です。

カラーボール 通常のテニスより小さなコート、遅いボール、短いラケットを用いた競技です。
マッチ 国際的なテニス普及プログラム「Tennis Play & Stay」の規格の一つです。

テニス体験としてのテニピン

- テニピンは小学校体育授業用の種目としても採用され、易しさを追求し用具とルールをアレンジしたテニス型ゲーム。バトミントンコートとほぼ同じ大きさのコートで手作りダンボールラケットやハンドラケットを操作し、ネットを挟んでスポンジボールを打ち合います。
- 当協会ではこの「テニピン」を、テニスの楽しさを知る第一歩としてテニピンリーダー（指導者）の養成に努め、学校の体育授業への普及をはかります。
- 詳しい資料は当協会のホームページにてご覧頂けます。



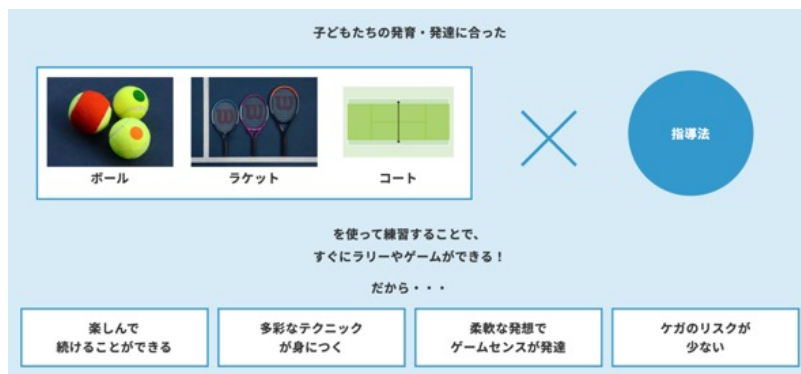
<https://fukyu.jta-tennis.or.jp/teniping/images/guidebook-v2.pdf>

※ 現在ホームページの改訂を進めておりこのページは今秋変更となります。



テニスの楽しさを知り習慣化するためのカラーボールマッチ

- テニピンの次の段階として通常よりも遅いボール、短いラケット、小さいラケットを使用したテニスで小さな子供でもラケットを持ったその日から楽しめます。
- 技術や身体の発達に合わせ、「レッド」「オレンジ」「グリーン」とボール、コート、ラケットが変わります。
- ゲームの楽しさを知ってもらい、テニスの習慣化につなげるプログラムです。
- 詳しくは当協会ホームページをご覧ください。
(TENNIS PLAY & STAYの名称での説明となっています)
<https://fukyu.jta-tennis.or.jp/playandstay/about.html>
※ 現在ホームページの改訂を進めておりこのページは今秋変更となります。



当協会の取り組み

テニピンリーダー（指導者）の養成	カラーボールマッチ認知活動及び体験機会の提供
①講習会（教員、コーチ対象）の立案及び実施	①one day camp及びTennis play&stay特別講習会の開催
②資格認定講習会カリキュラムの作成及び運用	②運営フォーマットの作成と発信及び実態調査
③講習会用のテキスト作成	③「愛知モデル」による成果調査
テニピン認知度向上のための活動（情報発信及び講師派遣）	テニス普及Webの活用、コンテンツの充実と発信
①小学校への認知向上活動（ファックスや教育媒体等を活用）	①テニピン及びTennis P&Sの情報発信
②用具提供、講師派遣、イベントによる実施率向上活動	②テニピンリーダー登録システム作成・運用
③ガイドブックの印刷及び改訂版の作成運用	③公式SNSを用いた情報発信
テニピン及びカラーボールマッチの体験イベント	
①テニピン及びカラーボールマッチの体験イベントの実施	
テニピンの教育的価値及び教材価値の向上、教本作成	
①出版社やテニスメーカーと連携したコンテンツ開発	
②テニピンの学術的価値の構築	
③テニピンのテニス育成強化及び教育との連携プログラムの構築	
④テニピンの小学校展開を超えた取り組み	

■ テニピンリーダー（指導者）の養成のための取り組み

講習会（教員・コーチ対象）を東京、山梨、富山にて実施、合計150名が参加しそのうち80名が認定資格を取得登録しました。計画段階の参加予定数90名を達成することができました。資格登録者90名を年度内の達成を目指していきます。

資格認定講習会カリキュラム及び講習会用テキストについては、出版社と連携のもとプロットを完成させ現在執筆作業中です。次年度の講習会より活用します。

■ テニピン認知活動における情報発信及び講師派遣

小学校への認知向上活動のためFAX等を活用した認知活動を実施しました。その結果、600校を超える用具申し込み、200校を超える講師派遣申し込みがあり、20校の用具を提供を実施しました。

テニピンの認知向上のため全国各地で教員対象の講習会（9か所、総勢550名参加/内一回はオンラインイベント参加150名）や幼少期の子ども対象のテニピン教室（親子含む）を実施してまいりました。

■ テニピン・カラーボールマッチ体験イベント

テニピン、レッドボール(PS)の融合プログラムを構築し日本テニス協会主要大会やイベント内で実施しました。具体的には全国7か所で総勢140名程が参加し認知向上につなげることができました。

単独のテニピン教室イベントについても5か所で実施し、総勢160名ほどが参加しテニピン普及活動に努めました。カラーボール体験イベントは、全国179回実施（1月15日現在）されています。



松岡修造×今井茂樹教育対談



テニピン・カラーボール体験イベント



■ テニピンの教育的価値及び教材価値向上 教本作成

出版社と連携して、テニピンリーダー講習会の教本を作成中であり次年度には運用可能な状況となります。テニピンの学術的価値の構築については、3本の研究論文が学術的に認められ、査読論文となりました。こうした成果も講習会用教本に取り入れ連動させることができました。

■ カラーボールマッチ認知活動及び体験機会の提供

1月現在で24の都道府県において、352大会、4,670エントリーの実績が報告。年度内に目標値（400大会、6,400エントリー）を達成できる見込みです。

■ テニス普及webサイトの活用・コンテンツの充実と発信

テニス普及サイトの運用としては、普及webサイト情報発信の場として活用してきた結果、発信のプラットフォームとして認知されました。また、JTAの公式X(旧:twitter)に各イベントの様子を積極的に発信し、認知向上に努めました。



NO.6 テニス普及webサイトの活用



NO.1 テニピンリーダー講習会講義



カラーボールマッチ

■ 特定寄附金の募集に関わる募金目論見書

令和5年度においては理事会にて承認された「特定寄附金の募集に関わる募金目論見書」に従い募集を行いました。

募集総額：10,000千円

募集期間：2023年4月1日～2024年3月31日

募集対象：国際テニス連盟（ITF）が推奨する「TENNIS PLAY&STAY」及び日本で開発された「テニピン」を通じてテニスの本質的な楽しさを体感し、より健やかで豊かなスポーツライフに寄与することへの理解を深めることによってテニス人口の裾野拡大を目指す普及育成事業
普及）日本全国でテニスをして遊ぶ（PLAY）子どもたちを増やす。全国の小学校の体育授業、教育委員会、地方公共団体及びテニス事業団体にテニス（テニピン）を取り入れてもらう活動を推進する。
子どもたちへの1dayイベントを開催する。

育成）初心者にゲームの楽しさを伝えていくことができるよう、レッドボール、オレンジボール、グリーンボールを使って、幅広い年齢を対象としたテニス★スターチャレンジを開催する。

募集理由：上記で展開する継続的な「TENNIS PLAY&STAY」、「テニピン」の円滑な推進に資するため

■ 寄附募集結果と利用

令和5年度においての普及事業に係る寄附金収入は4,469,500円、寄附金の利用につきましては普及事業（テニピン&カラーボールマッチ関係事業）総額12,470,194万円のうち1,816,460円を使用しました

単位：円			
前期末残高	寄付金収入	寄付金の利用	当期末残高
9,546,166	4,469,500	1,816,460	12,199,206



テニピンの認知度及び導入状況について

ーテニス環境等実態調査報告よりー

■ 目的と対象

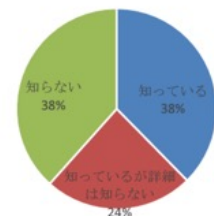
テニピンが小学校の体育授業にどれだけ導入されているかの調査を行った。対象は全国の小学校教諭に対してFAX と WEBにて アンケート調査を実施し1,592 人より回答があった

(アンケート結果)

■ テニピンを知っているか？

認知としては62%として高いが、いまだ、4割近くは知られていない。

①知っている	605 人 (38%)
②知らない	605 人 (38%)
③知っているが詳細知らない	382 人 (24%)



■ テニピンを知ったきっかけは？

ホームページからの情報収集が高く、こちらの情報の更新頻度と充実を図るとともに、これまで地道に実施してきた「講習会」や「研修会」の効果が出てきている傾向が伺えます。

①インターネット	385 人 (64.6%)
②講習会・研修会	271 人 (45.5%)
③学校の授業	240 人 (40.3%)

■ 導入状況（14%：218校/1,592校）

30%以上の導入率の都道府県も出てきており、導入が進んでいる都道府県が増加。一方で導入が0%の都道府県エリアもあるため、認知活動を含めて進めていきたい。

導入率	都道府県
30%以上	島根県（41%）、石川県（33%）、福井県（30%）
20%以上 30%未満	京都府（29%）、岩手県（25%）、愛知県（23%）、長野県&東京都（22%）
19%未満	和歌山県（19%）、奈良県&群馬県&青森県（17%）、滋賀県&岐阜県（16%）、愛媛県&新潟県（15%）他
0%	富山県、三重県、鳥取県、広島県、山口県、香川県、長崎県、大分県、鹿児島県

■ 導入理由について

学校の体育授業に沿っている点（考えられている）が評価されております。

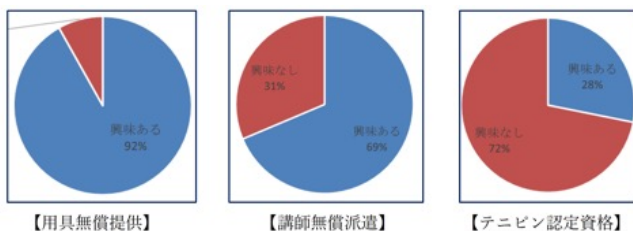
理由	回答数
①運動が苦手な子どもでも参加しやすく誰でも楽しめるため	44人
②ネット型の授業として最適なため	42人
③研修会や研究授業で体験、実践	30人
④テニス特有の面白さ、状況判断、作戦を練る力を棄権させられる	28人

■ 未導入の理由

認知活動（学校へのアプローチ）、用具関連の貸し出しやキャンペーンによる未導入課題への対策を進めていくことが大切と考えています。

理由	回答数
①知らない・よくわからない。詳しい教員がいないため	579人
②道具・用具がないため	548人
③カリキュラム・年間指導計画にないため	90人
④他のネット型ゲーム（ソフトバレー、キャッチボールなど）を実施のため	55人

■ 興味、関心事項について



■ テニス環境等実態調査（令和5年版）につき詳しく知りたい方は下記をご参照ください

https://www.jta-tennis.or.jp/Portals/0/resources/JTA/pdf/information/population/population_R5_jpnv5.pdf

